学校番号	213

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高校生の美術２」（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・技術を身に付けるだけでなく、制作活動の中で得られる内面の成長も大切にします。どの課題も、自己と向き合いながらの制作になります。自己表現として作品を制作する喜びを実感してください。また、他者の作品を「鑑賞」する活動も通して、自己と他者の理解を深めていきましょう。

2　学習の到達目標

美術Ⅰで得た能力に加え、さらに幅広く素材や技法を用い、また造形的な見方、考え方を働かせながら美的体験を重ね、より積極的に社会や生活における美術や美術文化と関わる資質・能力を育成する。

【知識及び技能】

美術の幅広い分野それぞれの特徴や知識をバランスよく体験し、対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて創意工夫し、応用できる力を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し、発想や構想を練ったり美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

学んだ専門的知識・技術を制作に生かす主体性や応用力、テーマを理解し構成する力、計画性、粘り強く最後まで制作する諦めない力など、社会で必要とされる様々な力を高めるとともに生涯にわたり美術を愛好する心情を育み美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	水墨画・水彩画	・水墨画・水彩画の特徴の理解と習得 ・表現の工夫	a:筆の持ち方・姿・筆運びなど、水墨画・水彩画特有の所作の理解・実践ができているか。 b:モチーフらしさを表現しようと工夫しているか。 c:鑑賞により、客観的に作品を見、課題を主体的に見つけ、次回作につなげるよう、試行錯誤を行っているか。	作品	作品	作品 授業や補講の様子
2学期	アクリル板絵画「表裏一体」	・重ねることで物理的に遠近感を出す仕組みの理解 ・裏から描く仕組みの理解 ・発想の独創性の追求 ・2面の関係性の効果的な表現の工夫	a:素材の特徴や課題の理解ができているか。 b:発想の独自性や、表裏の関係性に基づく仕掛けがみられるか。 c: 制作途中で客観的に作品を見、課題を主体的に見つけ、試行錯誤しようとしているか。	作品	作品	作品 授業や補講の様子
3学期	コマ送り動画「変身」	・コマ送り動画の仕組みの理解 ・発想の独創性の追求 ・効果的な表現の模索(画面割・モチーフの造形・素材選び)	a:小麦粘土の特性や動画の仕組みが理解できているか。配置や動きがスムーズであるか。 b:idea もしくはカメラワーク、素材選びやキャラクター造形に工夫がみられるか。 c: 制作途中で客観的に作品を見、課題を主体的に見つけ、試行錯誤しようとしているか。	作品	プリント 作品	作品 授業や補講の様子

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度